

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	24-311	慶應義塾大学名誉教授 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
A Narrative Review of Alcohol Prevention Interventions Among Older Adults 女性退役軍人におけるアルコール摂取量削減のための身体活動の影響：ナラティブレビュー		
執筆者		
Alexis Kuerbis ¹ , Silke Behrendt ^{2,3} , Alex Elswick ⁴ , Amy F Kostelic ⁴ , Simone Schultz ⁵		
掲載誌		
Alcohol Res. 2025 Sep 30;45(1):10. doi: 10.35946		
キーワード		PMID
一気飲み、運動、健康格差、マイノリティの健康、女性退役軍人		39035145
要 旨		
<p>女性退役軍人（WV）は米国で急速に増加している集団であり、懸念される健康格差が存在する。WVでは、一般市民と比較して心血管疾患（CVD）リスクの増加や健康状態の悪化が報告されている。現役軍人からの退役は追加的な生活ストレス要因となり、不健康な飲酒や身体活動量の減少といった健康行動の変化を引き起こす。これがWVにおける健康格差の一因と考えられる。これら二つの健康リスク行動の変化は相互に影響し合う可能性があり、新たな証拠は身体活動がアルコール使用治療中の飲酒管理に役立つことを示唆している。本概説的レビューでは、女性退役軍人を対象とした研究から得られた以下の知見をまとめた：(1) 飲酒と身体活動の関連性、(2) 身体活動が飲酒減少に及ぼす効果。さらに、女性退役軍人向け飲酒介入に身体活動を追加する際の臨床的考慮点についても論じた。本レビューに含まれる文献の大半は、主に退役軍人男性集団を対象としたものである。この知見の不足は、退役軍人女性間の健康格差解消に向け、彼女たちを標的とした継続的な取り組みと研究の重要性を強調している。</p>		